

中高年齢障害者の相談・支援に関する調査

調査の目的

障害者就業・生活支援センターにおける中高年齢障害者に関する相談・支援（キャリア形成支援を含む）の現状や支援ニーズに対応するために必要とされているノウハウ／制度等を把握します。

回答をお願いしたい方

貴センターにおいて、中高年齢障害者（45歳以上の障害者）に関する相談経験が最も豊富な支援担当者にご回答をお願いいたします。

注意事項

本調査における「**中高年齢障害者**」という言葉は、以下の2つの条件を満たす者を指します。

- ・ 貴センターに登録している障害者である。
- ・ 相談があった時点の年齢が45歳以上である。

また、本調査における「**キャリア**」という言葉は「個人の長期にわたる職業的な経歴（職務内容・役割・地位・身分などの変化）」だけでなく、「**社会（職場や地域など）における自分の役割を明確にした上で、自分らしい生き方の実現に必要なスキルの習得や経験を積み重ねること**」という意味で使用します。

本調査で詳細をおうかがいする相談内容は、障害者本人から直接相談があった場合だけでなく、職場の関係者、家族、他の機関の支援者など**本人以外の人からあった相談内容も含まれます**。

回答の際、氏名など**個人を特定する情報は記入しない**ようご注意ください。

本調査への回答は任意です。すべての質問にお答えいただけなくても、可能な範囲でのご回答でも結構です。

ご回答の内容により不利益な対応を受けることはありません。

後から回答を修正したい場合は戻ることができます。

アンケートを途中で中断した場合も、同じ端末かつ同じブラウザ環境であれば、中断した箇所から回答を再開することができます（途中回答の保存は1週間です）。

回答結果の管理

回答結果は、関係法令及び当機構の規定に基づき、障害者職業総合センターにおいて厳重に管理します。

回答結果は統計的に分析して活用します。個別の機関の状況を把握するものではありません。また、回答結果の保存、分析、発表等においては個人情報特定しないものとします。

調査結果は調査研究報告書やその他の公表物・学会において公表する予定です。

問い合わせ先

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター

担当： 武澤（社会的支援部門）、宮澤（障害者支援部門）

〒261-0014 千葉市美浜区若葉3-1-3

電話： 武澤（043-297-9117）、宮澤（043-297-9068）（月～金 9:15～17:30） FAX： 043-297-9057

電子メール：ssdiv@jeed.go.jp

Webサイト：<https://www.jeed.go.jp/>（機構）

<https://www.nivr.jeed.go.jp/>（センター）

回答をはじめ

貴センターが昨年度（令和4年度）に相談を受けた中高年齢障害者の課題についてお伺いします。

問1. 以下の課題の中から、相談を受けた課題をすべて選んでください。

育児・介護と仕事の両立

職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）

治療と仕事の両立

退職後の生活・将来展望

就労選択（就労先、就労系障害福祉サービスの利用意向、転職・退職に関する相談を含む）

労働条件（雇用形態、賃金、労働時間、勤務場所、職務内容等）

職場の人間関係（キーパーソンの変化を含む）

離職への不安（解雇、退職勧奨、雇止め等）

労働能率・生産性

生活水準・経済状況

労働意欲

体調や病気

その他

「その他」を選択した方は簡潔に課題の内容を下の欄に入力してください。

課題の内容を入力

あなたが選択した課題のうち**最大3つ**について詳細をお伺いします。

この見本では、問1において「育児・介護と仕事の両立」「治療と仕事の両立」「職場の支援・配慮(年齢相応の配慮を含む)」を選んだ場合の例をお示しします。

以下に、**問1**において、あなたが選んだ課題がランダムな順で表示されています。

あなたには以下の**一番上**に表示された課題について次の画面（問2）で詳細をお答えいただきます。

以下の**一番上**に表示された課題を選んで「次へ」をクリックしてください。

なお、次のページに進んだ後に、「戻る」ボタンを使ってこの画面へ戻った場合、課題の並び順が前回と異なることがあります。その場合は、**課題を選び直さず、そのまま「次へ」をクリックしてください。**

育児・介護と仕事の両立

治療と仕事の両立

職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）

課題「**育児・介護と仕事の両立**」の詳細についてお伺いします。

問2-1. 課題「育児・介護と仕事の両立」はどのくらいの頻度で相談がありますか。

ほぼ毎日

ほぼ毎週

ほぼ毎月

年に数回以上

年に1回あるかないか

問2-2. 課題「育児・介護と仕事の両立」に関する相談が多い障害種別（主たる障害）は何ですか（複数選択可）。

身体障害

知的障害

精神障害

発達障害

高次脳機能障害

難病

認知症

問2-3. 課題「育児・介護と仕事の両立」はどのような就労状況にある方に認められることが多いですか（複数選択可）。

求職中

就労中

問2-4. 課題「育児・介護と仕事の両立」はどの年齢層に認められることが多いですか（複数選択可）。

なお、「30代後半」や「40代前半」の障害者についても課題「育児・介護と仕事の両立」に関する相談がある場合は該当する選択肢を選んでください。

30代後半（35～39歳）

40代前半（40～44歳）

40代後半（45～49歳）

50代前半（50～54歳）

50代後半（55～59歳）

60代前半（60～64歳）

65歳以上

問2-5. 課題「育児・介護と仕事の両立」に対し、貴センターではどのような対応を行うことが多いですか。対応の内容を具体的に記入してください。

記入にあたっては以下の事項にご留意ください。

- 支援記録などに基づき厳密・網羅的に記入する必要はありません。思い出せる範囲でご記入ください。

- ご本人に対する対応に限らず、職場の関係者、家族、他の機関の支援者など**本人以外の人への対応もご記入ください**。本人を含む関係者間の調整を行っている場合はその旨もご記入ください。
- 他機関と連携して対応している場合は、どの機関とどのような役割分担で対応しているかをご記入ください。
- 「どのくらい詳細にお答えいただくか」の目安として下記の例を参考にしてください。

例) 健康管理の苦手さから体調を崩すことが多いため、必要な支援体制（受診同行など）を検討するため、本人と家族、関係機関を交えたケース会議を実施することが多い。

対応の内容を具体的に入力

問2-6. 課題「育児・介護と仕事の両立」への対応内容は、中高年齢者以外の障害者（45歳未満）に実施する場合とで留意点の違いはありますか。

特に違いはない

違いがある

「違いがある」を選んだ方は留意点の違いについて具体的に記入してください。

どのような違いがあるか具体的に入力

問2-7. 課題「育児・介護と仕事の両立」に対して、貴センターの相談や支援で効果的な解決ができていますか。

ほぼ解決できている

解決できていることの方が多い

解決できていないことの方が多い

ほぼ解決できていない

あなたが選択した課題のうち**最大3つ**について詳細をお伺いします。

詳細をお答えいただく「2つ目の課題」として、以下の**一番上**に表示された課題について次の画面（問3）で詳細をお答えいただきます。

以下の**一番上**に表示された課題を選んで「次へ」をクリックしてください。

課題がひとつも表示されていない場合は、そのまま「次へ」をクリックしてください。

なお、次のページに進んだ後に、「戻る」ボタンを使ってこの画面へ戻った場合、課題の並び順が前回と異なることがあります。その場合は、**課題を選び直さず、そのまま「次へ」をクリックしてください。**

治療と仕事の両立

職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）

課題「治療と仕事の両立」の詳細についてお伺いします。

問3-1. 課題「治療と仕事の両立」はどのくらいの頻度で相談がありますか。

ほぼ毎日

ほぼ毎週

ほぼ毎月

年に数回以上

年に1回あるかないか

問3-2. 課題「治療と仕事の両立」に関する相談が多い障害種別（主たる障害）は何ですか（複数選択可）。

身体障害

知的障害

精神障害

発達障害

高次脳機能障害

難病

認知症

問3-3. 課題「治療と仕事の両立」はどのような就労状況にある方に認められることが多い

ですか（複数選択可）。

求職中

就労中

問3-4. 課題「治療と仕事の両立」はどの年齢層に認められることが多いですか（複数選択可）。

なお、「30代後半」や「40代前半」の障害者についても課題「治療と仕事の両立」に関する相談がある場合は該当する選択肢を選んでください。

30代後半（35～39歳）

40代前半（40～44歳）

40代後半（45～49歳）

50代前半（50～54歳）

50代後半（55～59歳）

60代前半（60～64歳）

65歳以上

問3-5. 課題「治療と仕事の両立」に対し、貴センターではどのような対応を行うことが多いですか。対応の内容を具体的に記入してください。

記入にあたっては以下の事項にご留意ください。

● 支援記録などにに基づき厳密・網羅的に記入する必要はありません。思い出せる範囲でご記入ください。

● ご本人に対する対応に限らず、職場の関係者、家族、他の機関の支援者など**本人以外の人への対応もご記入ください**。本人を含む関係者間の調整を行っている場合はその旨もご記入

ください。

- 他機関と連携して対応している場合は、どの機関とどのような役割分担で対応しているかをご記入ください。
- 「どのくらい詳細にお答えいただくか」の目安として下記の例を参考にしてください。

例) 健康管理の苦手さから体調を崩すことが多いため、必要な支援体制（受診同行など）を検討するため、本人と家族、関係機関を交えたケース会議を実施することが多い。

対応の内容を具体的に入力

問3-6. 課題「治療と仕事の両立」への対応内容は、中高年齢者以外の障害者（45歳未満）に実施する場合とで留意点の違いはありますか。

特に違いはない

違いがある

「違いがある」を選んだ方は留意点の違いについて具体的に記入してください。

どのような違いがあるか具体的に入力

問3-7. 課題「治療と仕事の両立」に対して、貴センターの相談や支援で効果的な解決ができていますか。

ほぼ解決できている

解決できていることの方が多い

解決できていないことの方が多い

ほぼ解決できていない

あなたが選択した課題のうち**最大3つ**について詳細をお伺いします。

詳細をお答えいただく「3つ目の課題」として、以下の**一番上**に表示された課題について次の画面（問4）で詳細をお答えいただきます。

以下の**一番上**に表示された課題を選んで「次へ」をクリックしてください。

課題がひとつも表示されていない場合は、そのまま「次へ」をクリックしてください。

なお、次のページに進んだ後に、「戻る」ボタンを使ってこの画面へ戻った場合、課題の並び順が前回と異なることがあります。その場合は、**課題を選び直さず、そのまま「次へ」をクリックしてください。**

職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）

課題「職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）」の詳細についてお伺いします。

問4-1. 課題「職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）」はどのくらいの頻度で相談がありますか。

ほぼ毎日

ほぼ毎週

ほぼ毎月

年に数回以上

年に1回あるかないか

問4-2. 課題「職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）」に関する相談が多い障害種別（主たる障害）は何ですか（複数選択可）。

身体障害

知的障害

精神障害

発達障害

高次脳機能障害

難病

認知症

問4-3. 課題「職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）」はどのような就労状況にある方に認められることが多いですか（複数選択可）。

求職中

就労中

問4-4. 課題「職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）」はどの年齢層に認められることが多いですか（複数選択可）。

なお、「30代後半」や「40代前半」の障害者についても課題「職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）」に関する相談がある場合は該当する選択肢を選んでください。

30代後半（35～39歳）

40代前半（40～44歳）

40代後半（45～49歳）

50代前半（50～54歳）

50代後半（55～59歳）

60代前半（60～64歳）

65歳以上

問4-5. 課題「職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）」に対し、貴センターではどのような対応を行うことが多いですか。対応の内容を具体的に記入してください。

記入にあたっては以下の事項にご留意ください。

- 支援記録などに基づき厳密・網羅的に記入する必要はありません。思い出せる範囲でご記入ください。

- ご本人に対する対応に限らず、職場の関係者、家族、他の機関の支援者など**本人以外の人への対応もご記入ください**。本人を含む関係者間の調整を行っている場合はその旨もご記入ください。
- 他機関と連携して対応している場合は、どの機関とどのような役割分担で対応しているかをご記入ください。
- 「どのくらい詳細にお答えいただくか」の目安として下記の例を参考にしてください。

例) 健康管理の苦手さから体調を崩すことが多いため、必要な支援体制（受診同行など）を検討するため、本人と家族、関係機関を交えたケース会議を実施することが多い。

対応の内容を具体的に入力

問4-6. 課題「職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）」への対応内容は、中高年齢者以外の障害者（45歳未満）に実施する場合とで留意点の違いはありますか。

特に違いはない

違いがある

「違いがある」を選んだ方は留意点の違いについて具体的に記入してください。

どのような違いがあるか具体的に入力

問4-7. 課題「職場の支援・配慮（年齢相応の配慮を含む）」に対して、貴センターの相談や支援で効果的な解決ができていますか。

ほぼ解決できている

解決できていることの方が多い

解決できていないことの方が多い

ほぼ解決できていない

中高年齢障害者の支援ニーズに対応するために必要なノウハウや制度等についてお伺いします。

問5. 貴センターを含む地域の就労支援ネットワークにおける中高年齢障害者の就職または就労継続の支援にあたって ① 難易度が高い対応があれば、その内容をご記入ください。② また、その難易度を下げるために必要なノウハウや制度についてご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

① 就職または就労継続の支援にあたって難易度が高い対応

就職または就労継続の支援にあたって難易度が高い対応を入力

② 上記①の難易度を下げるために必要なノウハウや制度についてのご意見・ご要望

必要なノウハウや制度に関するご意見・ご要望を入力

問6. 貴センターを含む地域の就労支援ネットワークにおける中高年齢障害者のキャリア形成支援にあたって ① 難易度が高い対応があれば、その内容をご記入ください。② また、そ

の難易度を下げるために必要なノウハウや制度についてご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

なお、ここでの「キャリア」とは「個人の長期にわたる職業的な経歴（職務内容・役割・地位・身分などの変化）」だけでなく、「社会（職場や地域など）における自分の役割を明確にした上で、自分らしい生き方の実現に必要なスキルの習得や経験を積み重ねること」を指します。

① キャリア形成支援にあたって難易度が高い対応

キャリア形成支援にあたって難易度が高い対応を入力

② 上記①の難易度を下げるために必要なノウハウや制度についてのご意見・ご要望

必要なノウハウや制度についてのご意見・ご要望を入力

貴センターについてお伺いします。

問7. 「障害者就業・生活支援センター」の事業を貴センターが開始した年（西暦）を入力してください。

西暦を入力

問8. 昨年度（令和4年度）の貴センターにおける相談件数のうち、45歳以上の中高年齢障害者に関する相談が占める割合はおよそ何割でしたか。

1割未満

1割以上2割未満

2割以上3割未満

3割以上4割未満

4割以上5割未満

5割以上6割未満

6割以上7割未満

7割以上8割未満

8割以上9割未満

9割以上

戻る

82%

次へ

ご回答いただいた内容は、下記でお間違えありませんか？
修正する場合は、下の「戻る」ボタンで任意の画面まで戻って回答しなおしてください。

実際は質問毎に入力した回答が表示されます。

ご回答ありがとうございました。